

大川小遺族 悲しみ伝える…「語り部」運転手に

2016年08月25日

•



大川小の旧校舎前で語り部タクシーの運転手に被災状況を伝える佐藤さん(左)(24日、石巻市で)

東日本大震災の津波で児童と教職員計84人が死亡・行方不明となった石巻市立大川小の遺族が24日、仙台中央タクシー(仙台市宮城野区)の運転手6人を旧校舎周辺でガイドした。

運転手たちは被災地をガイドしながら運行する「語り部タクシー」の参考にしたいと参加。大川小で次女・みずほさん(当時12歳)を亡くした佐藤敏郎さん(52)が震災前の校舎の写真を見せながら、壁が破壊された教室やねじ曲がった渡り廊下を紹介した後、泥をかぶって見つかった児童の様子を伝えると、運転手らは涙をこぼしていた。佐藤さんは「絶対に繰り返しちゃいけない。私たちはこの悲しみから目を背けてはいけない」と訴えた。

参加した運転手の山本克己さん(63)は「遺族の人にしか語れない言葉を聞けたので、お客さんにしっかり伝えていきたい」と話した。

2016年08月25日 Copyright © The Yomiuri Shimbun